

平成29年度第3回宇都宮市学校教育推進懇談会会議録

■ 日時 平成30年1月12日（金）10:00～11:00

■ 会場 宇都宮市庁舎14A会議室

■ 出席者

委員： 藤井佐知子 会長，福田 治久 副会長，若園雄志郎 委員，金 克彦 委員，
竹島由里子 委員，松村 典男 委員，國吉眞理子 委員，船田 元 委員（代理：
上野 栄一 様），大川 直邦 委員，浪花 寛 委員，高橋 利和 委員

事務局： 教育長，教育次長，学校教育担当次長
教育企画課長，教育企画課総務担当主幹，学校管理課長補佐，学校教育課長，
学校健康課長，生涯学習課長，文化課長，スポーツ振興課長，教育センター所長，
学校教育課課長補佐他

■ 委員からの主な意見・質問等（要旨）

○「第2次宇都宮市学校教育推進計画」案について

高橋委員： 本編資料P32，33では，新規事業が何かが分からない。新規事業が何かが分かるようにした方がよいのではないか。

本編資料のP29に基本目標のみが書いてあるが，例えば，宇都宮市でどんなことをやっていくのかをこの部分に構造的に書き，宇都宮学などのやりたいことが分かるようにしてもよいのではないか。あまり書き込めないと思うが，例えば，基本施策などをこの辺りで関連付けて，「こういうことをやるのだな」ということ具体例が分かってもよいのではないか。

P34に基本目標1があり，その下に目指す姿があるが，目標があって目指す姿を設定しているならば，目指す姿が学習指導の評価規準的なことであるとすれば，それに対する定量的な数値化の評価であるP35の指標は目指す姿と関連付けられていないといけませんが，ばらばらに置かれているように見える。目指す姿を設定している以上，それと指標が関連され，例えば，目指す姿の①に対する指標は，P35のどれかと関連付けられている方が分かりやすい。そういう作業が可能ならば，併せて指標が精選されてもよいのではと思う。この資料の中で出すべき指標と，もう少し違うレベルの段階で追っていく指標とに分けてもよいのかなという気がする。理想的に言えば，目指す姿一つに対して指標が一つくらいでよいのではという感じがした。それで足りないならば，目指す姿の数の方が足りないのではないか。

また，宇都宮市はこれまで読書活動に力を入れて人的配置をさせていただいている中で，目指す姿や指標の中で見えていないのはどうなのかと思う。

前回意見を言わせていただいた小中一貫教育・地域学校園については，前の方で整理されたが，できれば，計画の方で，この施策や事業は小中一貫教育・地域学校園として宇都宮市としてやっている事業であるということが，印が付いているなどの形で分かり，細かいところは，小中一貫教育の手引きを見るとということであるとよいと思う。例えば，相互乗り入れ授業などの言葉がさらっと書かれているが，宇都宮市で小中一貫教育の事業としてやっているということがもう少し分かるようにしてもよいのではないかという感じがする。

感想であるので，できることとできないことがあると思うが，そのようなことを感じた。

藤井会長： 今のご意見については、書き方の工夫で補える部分があると思う。最初の、本編資料で新規事業が分かるようにした方がよいのではないことについて、私も同じようなことを感じていた。例えば、概要版の基本目標 2（2）の情報社会のところ、プログラミング教育の推進として星印が付いており、何をやっていくのかなと本編資料の P 3 2 を見ると、そこではプログラミング教育が見えず、その後の P 4 9 でようやく分かるというものがあった。そのように、概要版と本編資料の P 3 2、3 3 が合っていないというのがいくつかあった。そのあたりを書き込んでいくことは可能か。

事務局： 新規事業について、本編で分かりやすく表記することは可能であると思う。ただ、例えば宇都宮学など新規事業の中身について、具体的にはこれからという部分であり、書き込めないこともあるので、そのあたりを文章で詳しく書くのは、少し難しいかもしれない。

藤井会長： できる範囲でお願いしたい。次に、目指す姿と指標との関連については対応できていないとの意見があったが、どうであるか。

事務局： 目指す姿一つに対して指標が二つになっているところなどもあるが、対比したときに対になるように並べたつもりではある。

目指す姿によっては、ぴったり合う指標を選びにくいものもあった。あるいは、一つの指標が二つの目指す姿に関連していたりすることもあるので、きれいに一対一に関連付けて表記できるかどうかは検討させていただきたい。

これまでは、目指す姿に対して指標を絞っていたが、この懇談会において、目指す姿について一つの指標で達成できたと言えるのかというご指摘を毎年のようにいただいた中で、今回の計画では、教育という観点からも思い切って多面的に評価できるように複数の指標で測る試みをしているところもあり、これをさらに絞るのは、難しいかもしれない。その中で、第 6 次市総合計画に挙げたものを代表指標として印を付けて示した。ご指摘は理解できるが、どこまでできるかということがある。また、今回、多面的に評価していきたい、それを別の冊子ではなく計画の中に位置付けたいという思いから、指標が少し多くなっているところでもある。これは、賛否両論あることは十分承知の上で、初めてやってみたところである。

藤井会長： 例えば、分かりやすさという意味で、番号などで関連を示すことはできるか。

事務局： 今の段階では可能という気がしているが、すべてがぴったりとは当てはまらなかったり、二つの目指す姿の指標になっており、かえって分かりにくくなってしまったりということもあるかもしれないため、取り組んでみて、検討させていただき、上手くいくようであれば、その方向で進めたい。

藤井会長： 参考としているものについては、別立てにするなどしてお願いできればと思う。

高橋委員： 別立てとか段階を付けるとか、同列に出すのではない見せ方の工夫があるのではないかという感じがする。特に重点指標としてはこれであるなど。それが市の計画と共通の指標になる場合も、ならない場合もあると思うが。数字が並んでいると圧迫感が強い。指標同士に差をつけていくことで見え方も違うのではないかと思うので、検討していただきたい。

藤井会長： 小中一貫教育・地域学校園の盛り込み方について、これについてはなかなか難しいところだが、これについて他に意見はいかがか。

事務局の説明の中で、計画の展開の中で散りばめているということに対し、ご

意見としては、もう少し明示的にした方がよいということであったが。

個人的には、P 17から小中一貫教育に関わる評価があるが、これだけ厚くやってきたのが、これから先どうなっていくのかという内容について尻つぼみになっているような印象を受けた。このP 17でやってきたことを、これをどのようにするのかというのをに入れていただけるとよいなと思ったが、これは感想である。どうしたら分かりやすくなるのか、ご意見があればお願いしたい。

浪花委員： 話題は異なるかもしれないが、課題が整理された計画であり、また、新しい課題が出てきている中で新規事業が多く立ち上がってきているのは、学校教育の充実を進める上で必要なものが立ち上がっていると受け止めている。

そうした中で、P 67に働き方改革の話があるが、教員の働き方について社会的に注目が集まっている中で、今回、新しい計画を出し新規事業もたくさん挙げられている。計画の中に文言を入れるということではないが、今後、どんなところでスリム化や業務の削減、重点化をしていくのかということが説明されると思うし、教員もそれを伺いたいと思う。例えば、施策事業の一覧があり重点も付いているが、これまでの計画と比較して重点だったものはずしたなどの状況が分かるようにしてはどうか。10年前は周知・啓発のために全市的に行ったが、定着してきたので学校裁量にしたとか、そういうことが各担当の意識として大切だと思う。そういうことを、今後計画を進める上で大切にしていきたい。

学校で各教員の業務を見ていると、業務量が多い担当者にとってどれくらい業務を削減できるかという中、事務局の方でも学校全体に必ずやりなさいとしてきたもので、学校裁量や削減に向かえるものがあれば、そういう説明をしながら、学校と一体となった働き方改革を進めていただきたい。

藤井会長： 他のことでも結構だが、何か意見があればお願いしたい。

松村委員： 小中一貫教育・地域学校園について、よい取組であると思う。P 18に分かりやすく写真で掲載されているが、課題があれば皆でクリアしていくことが大切であると思う。例えば、③、④の乗り入れ授業では、双方のよさを取り入れてつながりを滑らかにしていこうというのは分かるが、小学校の教員が中学校へ行って生徒の反応に困惑して体調を崩したとか、中学校の教員が小学校へ行って説明中心の授業を行ったとか、そういう課題も聞いている。上手くいった事例だけを表に出すのではなく、課題となった事例を出し合ってクリアする方策を全校で統一していくことが大切ではないか。小中一貫教育については賛成であるので、実践の中での課題についても正直に出し合って解決していけるようにするとよい。

藤井会長： 事務局の方で、小中一貫教育・地域学校園の取り扱いについて何かあるか。

事務局： この11の取組については施策の中に散りばめているが、今後、散りばめるだけではなく、小中一貫教育・地域学校園の制度が基本目標5に位置付けられており、その制度に係る取組がどこに散りばめられているかが分かるような表記ができるように検討していきたい。P 17、18が後半の部にどうつながっているかが見えにくいというご意見であると思うので、参考にさせていただきたい。

藤井会長： そのほか、感想でも結構であるのでいかがか。

竹島委員： たくさんの目標や基本施策が書かれておりすばらしい冊子だと思うが、ボリュームが多く、これを現場の教員が全部読み切っていくのは大変ではないかと思う。これを渡して進めていくときに、今年はこれを重点的にやっていくなど、そういうものが分かる別紙があるとよいのではないか。

藤井会長： そういった課題は、計画ではよくあるかもしれない。

事務局： これを1冊送って、これをやりなさいということではないようにしていきたい。ご意見を参考にさせていただき、校長会議等で噛み砕いて説明する、今はこれを重点にしていきやめましょうと示す、学校教育スタンダードで示すなど、教員にとって重点が分かるようにしていきたい。

大川委員： 高校生は複数の市町の中学校から入学するが、各市町がどのような計画や課題意識を持って取り組んでいるのかが分かると、高校でも継続につながる貴重な資料となるので、この計画を参考にさせていただきたい。

上野委員： 私立高校においては、栃木県全般から入学してくる中で、宇都宮市の小中一貫教育については関心を持っていた。小6の中学校訪問については私立としてはそぐわない部分があるが、中1ギャップの解消など、関心がある。また、参考になる内容が書かれており、リフレッシュデイの設定など、働き方改革については、今後も注目していきたい。

福田副会長： 小中一貫教育について、基本目標5に入っているのは当然のことと思うが、地域学校園外の中学校とも交流が重なる小学校があるなどの様々な現状もある中で、このことはこう必要だから取り組んでいるということが分かるとよい。複数の中学校と交流をしなければならぬ小学校などでは負担感があるが、市全体としてはまた違って、すばらしいことであるし必要なことであると思うので、いろいろな現状がある中で市全体としてはこれだけでできており、効果があるというのが分かるように書き加えてもよいのではと思う。

働き方改革については、P16にも記載があるように、これから素晴らしい先生方が退職されていく時代を迎える中、新しい勤務体系を構築していかなければならない時代になる。表面的に勤務時間のみを変えても、その結果、働く時間、子どもと接する時間が短くなって、やるべきことを100%できなくなると、働き方改革の流れなどが完全に浸透はしない中で保護者はどう受け止めるかといった問題も出てくる。計画に書けることではないが、そのあたりのバランスを上手くとりながら進めていただきたい。

若園委員： 指標についての意見に関して、名前ぐらいは変えてもよいのではないかと思った。市で使っている用語もあるので一概には言えないと思うが、数的指標、関連指標、などの言い方をすれば多少は違うのではないか。もう少し明確にしてもよいのではないか。

P3で、ふれてもよいかと思ったが、市で使っている用語もあると思うので、その辺も含めて検討いただきたい。

藤井会長： 指標で質的深まりを見ていくことは大切であるが、数字が並んでいるとどうしても圧迫感があるので、教員にとって負担感にならないような記述があるとよいのではないか。

金委員： 皆さんの意見の中では、書き方についてのものも多くあったと思うので、それらを精査していただければ、よいものになると思う。

松村委員： 冊子を受け取ったときに教員がすべてを読み込んでいくのは義務だと思うが、P38は分かりやすく、コンパクトにまとまって分かりやすい資料だと思う。実際の授業を参観すると、途中で多くの子供が分からなくなって聞き役に回っているという現状があると思う。一人一人のニーズに応えていくという市の方針があるが、分からない子どもが多くなる状況を救うようなことが資料に書いてあると

思う。例えば、「つなぎ言葉が大切」と書いてあるが、こういうことが別刷りであってもよいのではないか。子どもたちの理解を図る指導の言葉があると思うが、そういうものがP38には掲載されている。これを毎年更新していくことで、子どもたちにとって分かる授業が展開されていくのではないかと期待している。

次期学習指導要領の要点を一言で言うと、「資質・能力を伸ばし、使う」改革だと思う。資質・能力を使いやすくするのがこの「つなぎ言葉」で、大変有効な手立てだと思う。

藤井会長： この資料は指導主事が各学校への訪問などで活用していると聞いているが。

事務局： これはもう少し詳しい資料を概要版にしたものだが、これをクリアファイルにして、全教員に配付した。教科による違いや、学校の重点を入れながら学校が作り直していくことも力を付ける上で大切であると思うので、今後もこういった資料を活用しながら推進していきたい。

藤井会長： P24の成果と課題について、何に対する記述か、小中一貫教育についてのものかと思ったが、読み進めていって始めて、これは本市の学校教育のことであると分かった。もう少し分かりやすくするための解決策として、P23の最後に、本市でどのような教育を行ってきたその成果や課題はどういったことで、というようなコラムのようなものがあるとよいではないかと思った。

また、ESDやCSRなどの言葉について、注釈があるとよいと思った。

今後については、事務局に検討いただいて、私が確認をするという形で進めてもよいか。今日いただいた意見をできるだけ盛り込めるようにしていただければと思う。